

地域教育コーディネーター

国は、地域学校協働本部政策の一環として、地域と学校が双方向で「連携・協働」していく活動の充実に向け、その担い手である地域教育コーディネーターの設置を推進しています。

今回ご紹介する菅生中学校区は、宮前区8中学校区において、令和3年にいち早くコーディネーターが設置されました。また、宮前平中学校区は今年度、8名ものコーディネーターが選出されました。

そんな2中学校区に取材を快諾していただきましたのでご紹介いたします。



菅生中学校区



地域教育コーディネーター 山田様・川西様・生駒様

現在の菅生中学校区地域教育コーディネーターの動きとしては、これから積極的に活動していくためのスタートを切り、さらに何をすべきかを模索している状況とのことです。

始動して1年経過しましたが、まだまだ手探りの状況でコーディネーターとして具体的に「これがそうです」というような明確な動きはまだ見えていない様子。しかし、すでに菅生中学校区の地域教育会議は各部会の横のつながりも議長はじめよく認識されていることがわかり、川崎市における地域教育会議の理念について理解し、具現化していることを改めて確認できました。

地域教育コーディネーターとして、まず取り組んだことは、中学校区にある子ども会の活動の様子を各自治会の方に集まっていたいただき、状況をお聞きしたとのことです。併せて学校教育推進会議の方が

参加する場面もあったそうです。地域教育会議のメンバーでもあり寺子屋事業のコーディネーターをしているといったように、子どもの状況も様々な場面から見ている人がメンバーにいたことがうかがえます。

「地域と学校の橋渡し」というところが見えず、橋渡しとは何だろうということを模索しているように感じました。

子どもを見守る様々な活動をしているメンバー

このメンバーの方は様々な地域活動を通してこの地域の子どもの様子を見つめています。子ども食堂の活動、寺子屋、中学校区地域教育会議議長・・・さまざまな活動をバックボーンに持ち、地域を見つめ、どうしたら地域が子どもにとって居心地の良い居場所になるのかを考えているのが伺えました。

地域教育コーディネーターを決める際に

コーディネーターを募りたいと思っていましたが、最終的にコーディネーターを決めるには地域教育会議の中で情報共有し、諮った上で決めるようにしたとのことです。場合によっては教育委員会の担当セクションに相談し、運営委員会に来てもらい、委員の皆さんの承認を得るプロセスが必要だと感じたとのことです。

地域の中で繋がる

「すがお手つなぎまつり」という地域のお祭りがあります。人と人がつながって楽しく子育てできる地域をめざして行われるイベントです。蔵敷こども文化センター、地域子育て支援センターすがお、菅生分館を会場に、模擬店や無料で遊べる場、ステージでは楽器の演奏やダンスなどを通して人がつながっています。実行委員を中心にこのお祭りで多世代がつながり、自治会や近隣商店会の協力も得て、地域の中の子どもに関連する施設や団体にも広がっていることに驚きました。

「子どもたちにとって居心地の良い地域を目指して、地域と学校が協働で活動しています。」

「大人は生き生きしているか、子どもにメッセージを伝えているか、学校と共に考えようと思いました。この時の取組みが現在の活動を支えているのです。」

【菅生分館だより】掲載記事より

この地域教育会議は、菅生の地域の中でこのメッセージを具現化していると改めて感じ、引き続き新たな地域教育コーディネーターという役割を担いながら、地域の主体的な活動を継続し、発展させていく姿勢を強く感じました。